



連携室便り



発行日：23 年 10 月

取手北相馬保健医療センター

医師会病院

—医療連携室便り—

—第 24 号—

記録的な猛暑もようやく一段落し、日増しに秋の深まりを感じる頃となりました。諸先生方におかれましては、日頃から当院の医療連携活動にご理解・ご協力をいただき心から感謝申し上げます。

今号では、前号でご紹介いたしました新型CT装置について、担当の放射線科よりさらに詳しくご紹介いたします。また当院ではCTの他MRI、超音波検査（腹部、心臓、血管）、内視鏡検査、脳波、ホルター心電図などもお受けいたしておりますのでぜひご利用ください。

ご紹介の患者さんがいらっしゃいましたら医療連携室が窓口となりますのでご連絡ください。



64 列マルチスライス CT

いつも医師会病院にご支援いただき誠にありがとうございます。

7月より導入いたしましたGE社製の新型CT（Optima CT660 Pro）の主な特徴をご紹介します。

今回導入いたしましたCTは日本の医療環境を考慮して開発されたCTです。新開発の画像再構成技術を搭載することで、コンパクトなX線管球で、スピード・高画質・低被曝を実現しています。導入時は電源工事・CT室改修が不要なため工期が短期間であり、日常の検査業務にほとんど影響することなく、導入コストも抑えることができました。

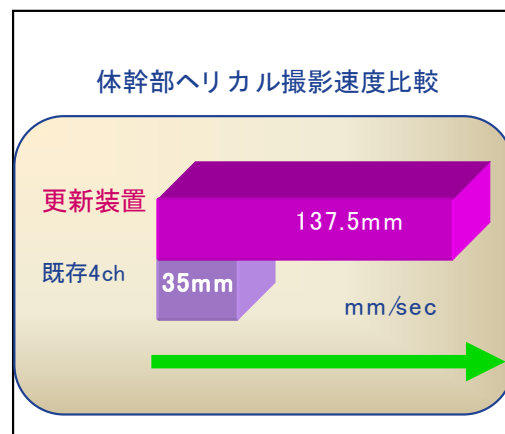
特徴

①高速かつ広範囲撮影

従来の4列検出器MDCTから64列検出器を搭載したCTで、撮影時間が大幅に短縮され、さらにより薄いスライスのスキャンが可能となりました。

（例）胸部3秒、胸腹部7秒

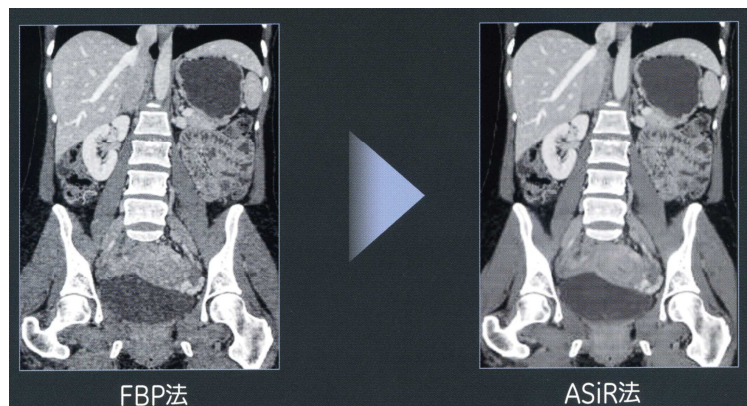
（従来4列検出器CTの約1/5の撮影時間）



②画質の向上・被曝線量の低減

最新技術の画像再構成アルゴリズム（逐次近似法）を採用しています。従来のフィルター法と異なり空間分解能に影響を与えることなく、ノイズ成分だけ削除できることから、驚くほど鮮明な画像を得ることが可能となりました。**従来と同じX線量であれば画質がさらに向上し、同程度の画質であれば半分程度のX線量で画像化できます。（最大で50%の低被曝にて撮影が可能。）**

当院では画質を重視した40%の線量低減率をルーチンとしています。（胸部で約3mSv）



③患者さんが安心して検査を受けられるための配慮

大型のディスプレイを本体に搭載しており、患者様が自分で名前を確認でき患者間違えの予防に役立ちます。難聴の方でもアニメーションにあわせて呼吸停止を行うことが可能な親切設計です。



④良質な血管系3D画像の提供

装置に加え、新たにワークステーションを導入することにより、良質の血管系の3D画像の提供が可能となりました。

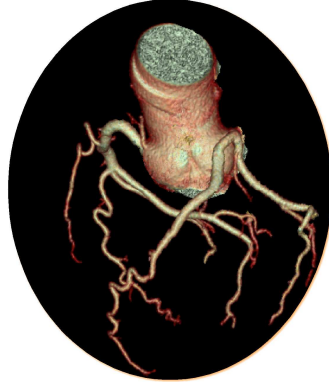


⑤検査領域の拡大

・ 冠動脈 CT

筑波大学病院循環器内科との協力体制を整えました。

筑波大学病院循環器内科 佐藤 明先生と当院循環器センター長 渡邊副院長の指導により着々と準備を進めております。当院で十分な実績を重ね秋頃から会員の先生方へのご案内を予定しております。

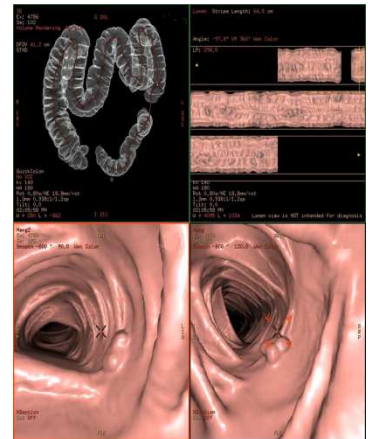


・ 大腸 CT (CTコロノグラフィー)

専用の大腸解析ソフト

(仮想内視鏡・仮想注腸画像・展開像など)

を用い病変を発見し評価します。



CT検査は注腸のように撮影の度に体位変換を必要としないため、お年寄りや体位変換の困難な患者様に対して負担の少ない大腸検査が可能となります。(仰向けとうつ伏せの2体位撮影のみ)

しかし、現在日本では、精度を向上させるための専用バリウムや炭酸ガス自動注入装置が認可されておられません。一般的な検査方法として確立させるために、日本で研究を行っている医師が中心となり進めてます。準備が整い次第ご案内させていただきます。

・ 歯科CT

ワークステーションにインプラント専用のソフトを導入しました。詳細なスケール表示が可能となりました。

その他、ご質問ご要望等ございましたらお気軽にご連絡下さい。

放射線科 今野 孝弘

0297-78-6111 (院内 PHS 927)



呼吸器外来一時休止のお知らせ

平成 23 年 10 月 1 日より呼吸器科専門医師の不在により、診療を一時休止させていただきます。
先生方には大変ご迷惑をおかけいたしますが、ご理解くださいますようお願い申し上げます。

診療再開となる場合は、随時お知らせいたしますのでよろしくお願いいたします。



常勤医師の紹介

宮国 泰巳（みやくに たいき）先生 外科

入職日 平成23年8月1日

日本大学消化器外科に所属し、医師として6年目になります。大学病院外科入局後、年間緊急手術500件を誇る公立昭和病院で、レジデントとして急性腹症、緊急手術など多くの症例を経験しました。忙しく眠れない毎日でしたが、外科医として貴重な経験を早い時期にたくさん積めたと思います。現在に至るまで、たくさんの手術に携わってきましたが、まだまだ外科医として修行の身ですので、一步一步前進していけるよう努力を継続していきたいと思っています。中学、高校、大学とラグビーをしておりました。今は運動不足の日々ですが（笑い）病棟で頑張って走り回りますのでどうか宜しくお願いします。

非常勤医師の紹介（今回は外科をご紹介します）

谷 真弓（たに まゆみ）先生 H4年6月1日付

日本大学乳腺内分泌外科講師

乳腺疾患一般・診断・治療

診察日時 毎週月曜日午前

林 成興（はやし しげおき）先生 H11年8月11日付

日本大学消化器外科講師

大腸肛門疾患（ALTA療法）・鏡視下手術

診察日時 毎週水曜日午前

村山 公（むらやま いさお）先生 H14年4月1日付

日本大学消化器外科講師

上部消化管内視鏡・食道疾患

内視鏡検査 毎週金曜午前



とびっくす

今号でご紹介いたします治療法は外科 林成興先生が専門となりますので、このような患者さんからのご相談があるようでしたらぜひ当院外科へご紹介くださいますようお願いいたします。

内痔核の新しい治療法について

一説によりますと日本人の 3 人に 1 人は痔持ちであると言われています。今回、痔の中でも最も多い痔核につきその病態と治療法、特に当院で最近導入した新しい治療法 ALTA 法（ジオン注）に関し説明します。

まず痔核の症状、原因について

内痔核（=いぼ痔）とは、肛門の奥（直腸との境）に生じた静脈のかたまりをいいます。りきみや便秘によりうっ血し膨らみ、出血しやすくなります。この位置は基本的に痛みの神経がないところなので痛みは伴いません。また内痔核の付け根の粘膜が緩んで、たるんでくると肛門の外に飛び出てきます。これを脱肛といいます。

うっ血は軟膏により炎症を抑えると軽快しますが、粘膜のたるみは軟膏では改善しないため脱肛がある場合には、基本的に粘膜のたるみを治す治療が必要となります。

内外痔核は内痔核に肛門周囲の静脈のかたまりが加わったものをいいます。肛門粘膜は痛みの神経が敏感なため、痛みを伴います。

いぼ痔の原因それは人間が二足歩行で歩いているからです。4 つ足歩行の動物には、いぼ痔はできないとされています。

排便という行為が動物であるがゆえ生活上必要なものである以上、肛門（便の出口）があるのは当然ですが、その位置が心臓より下にある（二足歩行）のは人間だけなのです。

そのため血流は重力の関係で肛門にうっ滞しやすく『痔』となるのです。

次に治療法についてですが、痔核の治療法は、その程度（Grade）により異なりますが、生活指導は全ての段階において重要ですので先生方も患者さんには是非教えてあげて下さい。

まず便通コントロール（下痢も便秘もいけません）。

そして、暴飲暴食の禁止（特に香辛料を控える）、生活環境の改善（立ちっぱなし、冷やし過ぎの注意）等です。

それでは、治療法について述べます。

Grade I（出血が主な症状）： 軟膏（座薬）により痔核の浮腫みを抑える。出血に関しては注射硬化療法が効果的。

Grade II（排便時にいぼ痔が肛門外に脱出するのを自覚するものの自然にいぼ痔が肛門内に戻る）：軟膏（座薬）により痔核の浮腫みを抑える。脱出が軽度であれば、ALTA療法（ジオン注）が有効。

Grade III（脱出した痔核が自然には元に戻らなくなる）：ALTA療法（ジオン注）による治療。過去に治療歴があり改善されていない場合や経過が長い例は痔核根本手術。PPHの適応。

GradeⅣ（排便に関係なく、いぼ痔が脱出てきてしまう・内痔核の土台の粘膜が緩みきってしまっているため排便に関係なく痔核が肛門外に脱出する）：外痔核が大きいものはPPHの適応もあり。過去に治療歴があり改善されていない場合や経過が長い例は痔核根本手術の適応。

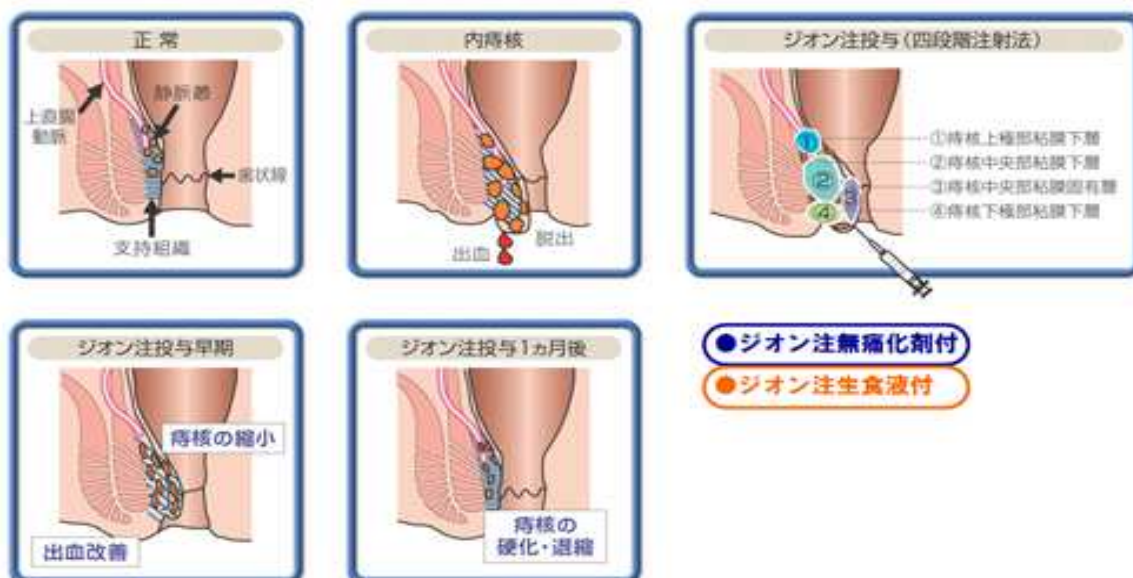
次に当院にて4月より導入しているALTA療法（ジオン法）について説明します。

ALTA療法はジオン注を用い修練された医師により行われる四段階注射療法で昨年より保険適応になっています。

作用機序、手技は下図のようです。



四段階治療法と治療効果



この治療法の利点は、

①入院期間の短縮 ②術後の痛みの軽減 ③合併症（出血、狭窄など）の軽減 ④他疾患（心臓、脳梗塞などの疾患のため抗血小板剤内服中など）を併せ持つ方や高齢の方でも治療可能などが挙げられます。特に今まで痔の諸症状に悩むも手術は怖いといった患者さんには朗報と言えます。

先生方におかれましてそのような患者さんからの相談があるようでしたら、是非当院外科へ紹介されるようお願いします。

編集後記

暑さ寒さも彼岸までの言葉通り、さわやかな秋風が吹くようになりました。食欲の秋、スポーツの秋、読書の秋、行楽の秋と何をするにもぴったりの季節です。フルーツショップの店頭には秋の味覚が並びはじめて、生活習慣病やメタボリックと食欲を天秤にかけ、健康と欲求の両立ができるといいなあと思う今日この頃です。また、天候のよい日には、いろいろなイベントに参加される方もたくさんいらっしゃると思いますが、怪我などされないようがんばって、そして楽しんでください。



編集：医療連携室

TEL:0297-78-6183(直通) TEL:0297-78-6111(代表)
FAX:0297-78-6184